

中村 資源リサイクル率日本

一のまちとして、新聞などでもよく取り上げられますが、これも成果と言えるのではないのでしょうか。町外の知り合いからも「大崎町のが新聞に出てたよ」「テレビに出てたね。」などとよく言われるので、大崎町のアピールにつながっていると思いますよ。また平成27年に大崎町で開催された『地球環境を考える自治体サミット』では、小学生が自分たちの取り組みを事例発表して、他自治体の参加者から高い評価を受けていましたね。子どもたちの環境教育にも役立っているのではないのでしょうか。

すごい成果ですね。高齢者など分別が難しい方への対応はされていますか？

東 平成10年の分別開始から約20年が経過しようとしています。個人差はありますが、分別開始当初、すでにご高齢だった方は分別を覚えることがなかなか難しく、ご家族や地域の方々の協力が必要であったと思います。現在在宅で自立生活されている方はほとんど慣れていると思われる

す。ただ、なんらかの介護サービスを受けられている、あるいは分別はできるけれど重くてごみステーションまで運べないなどの方を対象に、玄関先までごみを回収に行く『ごみ出しサポート等事業』を行っています。福祉部門とも連携を取りながら今後も支援を行いたいと考えています。

中村 町内全体の問題なので、自分たちの地域でも高齢化が進んでいます。分別がだんだん難しくなる方も出ているので、『ごみ出しサポート等事業』のような対策はぜひお願いしたいですね。



▲ごみ出しサポート等事業

『菜の花エコプロジェクト』って何ですか？

東 『菜の花エコプロジェクト』とは、持続可能な循環型社会づくりの象徴的なもので

す。具体的には、各家庭から回収した生ごみ・草木を堆肥化し、有機堆肥『おかえり環ちゃん』として販売する一方で、生産した堆肥で菜種を栽培し、菜種油『ヤッタネ！菜ツタネ!!』として販売しています。この菜種油を使用して調理し、食事の残りは生ごみとして回収、再度堆肥化へ。使用済みの油は廃食油として回収し、軽油代替燃料として精製し、ごみ収集車などの燃料として活用されています。

また、『菜の花エコ石けん』も製造され環境にやさしい石けんとして人気があります。農林水産省が国内自給率向上のために開催している『フード・アクション・ニッポン アワード2015』において、菜種油『ヤッタネ！菜ツタネ!!』が食品部門で最優秀賞を受賞しました。審査委員からは受賞の理由として、単なる食品ということではなく、町民一丸となつて取り組んでいるリサイクル活動という背景があつてこそその食品という評価をいただきました。道の駅での販売をはじめ、ふるさと納税の返礼品としても人気が出ています。

中村 私は菜種の栽培は行っていないですが、菜種油は購入して揚げるには良い香りです。



インドネシアへの環境指導について教えてください。

東 新聞・テレビなどでご紹介の方も多いと思いますが、平成24年からインドネシア共和国西ジャワ州デポック市、平成27年からはインドネシア共和国バリ州にJICA事業を活用して環境指導を行っています。デポック市は首都ジャカルタに隣接していますが、本町の2倍くらいの面積に対し人口がなんと約200万人です。どこに行っても人、人で近年の経済発展により急

激に成長を続けています。

一方バリ州は1市8県で構成されている観光を主とした島ですが、人口約400万人が住んでいて、デポック市と同じように人口が増え続けています。最初JICA事業に取り組んだきっかけは、デポック市内にあるインドネシア大学と鹿児島大学が学術交流協定を結んでいて、増え続けるごみ問題で困っていたインドネシア大学が鹿児島大学に相談し、鹿児島大学が本町を紹介したことから始まりました。本町の焼却に頼らない分別による低コストのリサイクルシステムは、『大崎システム』と呼ばれ、遠くインドネシアでも必要とされています。指導の内容としては、住民に対してはごみの中で最も重い生ごみと最も容積の大きいプラスチック類を主に分けなさいと指導しています。本町でも最初から27品目だったのではなく、少しずつ増えて今の品目数になったわけですから、最初は簡単なものから分別するよう指導しています。企業に対しては、集めた生ごみを堆肥化する技術や分別収集の方法を指導しています。本町のように有機工場が機械化されて